

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K03038

研究課題名（和文）学校図書館における教科学習のための教員支援に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Supporting Teachers for Subject Learning in School Libraries

研究代表者

大平 睦美（OHIRA, MUTSUMI）

京都産業大学・文化学部・教授

研究者番号：70633329

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本実践では、司書教諭や学校司書、公共図書館の担当者が教科学習のために選択した図書資料が、授業にどのように活用されたかを担当教員と情報共有することで、資料選択の方法を見直し、改善することを目的としている。しかし、選択した図書資料を活用した授業に図書資料を選択した担当者が参加できるとは限らない。そこで、書評レビュー用のアプリを介して図書資料の活用状況を共有することで、教科学習における図書資料の活用状況を可視化し、図書資料の活用的一端が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学習指導要領にもある通り、授業における学校図書館の計画的な活用は各自治体、各学校においても積極的に行われているが、現実には国語科で主に読書での活用である。しかし、学校図書館の活用では、児童生徒の主体的な学習活動を導き出すことであり、学年や教科に応じてそのためのスキルを育成することに重点をおかなければならない。そのための教員に対する学校図書館の支援を示すことは教科教育の質の向上に繋がる。本研究では、学校図書館が国語科、読書と限られた内容での活用ではなく全ての教科で活用でき、指導計画段階で授業を担当する教員と図書館担当者が情報を共有することで、授業の内容がより充実することが示されたと考える。

研究成果の概要（英文）：In this practice, by sharing information on how the library materials selected for subject learning by librarian teachers, school librarians, and public library staff were used in classes with the teacher in charge, the method of material selection was improved. The purpose is to review and improve. However, it is not always possible for the person in charge who selected the selected library materials to participate in the class using the selected library materials. Therefore, by sharing the usage status of library materials through a book review app, we visualized the usage status of library materials in subject learning and clarified a part of the utilization of library materials.

研究分野：教育工学

キーワード：学校図書館 教科学習 教員支援

1. 研究開始当初の背景

千葉市立中央図書館では、学校・学校図書館との連携・協力をした取組みとして、見学会、おはなし会、職場体験などの他に、一般資料とは別に市内の学校向けに団体貸出用 56 セット 850 冊余を含めた図書資料を収集、所蔵している。2021 年度からは、これまで団体貸出を除いては、個人名義の図書カードで貸出ししていたことを改め、各市立学校に学校用図書カードを配布している。

しかし、「図書館と学校・学校図書館の図書資料管理のネットワーク化や、市立中央図書館の担当職員と学校図書館担当者間での情報交換や相互理解が十分とはいえない状況である*1」ことから、図書資料を活用した授業が推進されており、学校図書館指導員が配置され学校図書館と公共図書館との連携体制も整備されているので活用は促進されているが、学校図書館や公共図書館の担当者のネットワーク化や情報共有が課題としていた。

2. 研究の目的

教科学習において学校図書館資料の有効な活用が目的である。学校図書館の図書資料を使った授業で選択された資料がどのように活用されているのかの評価・検証を行う。

書評レビュー用のアプリを介して教員と図書館担当者が図書資料の活用状況を共有することにより、教科学習における図書資料の活用状況を可視化し、両者による資料評価が可能となり、教科学習の単元に沿ったより効果的な図書資料の提供の実現である。

3. 研究の方法

3.1 フィールドの概要

協力図書館、協力校は、千葉市立中央図書館、千葉市立 B 小学校、T 中学校である。2022 年度より TS 小学校が加わった。千葉医市立図書館情報資料課の担当者は市立小学校の教員が出校しており、千葉市立中央図書館が窓口になり、図書館内の各部署や各学校との調整など、調査の中心的な役割を担っている。

3.2 データ収集の方法

小学校では 2 校兼務の学校図書館指導員が担当教員の教科学習における図書資料の依頼について、聴き取りしアプリに入力を行う。中学校では 1 校勤務の学校司書が中心となり、担当教員や学校図書館を利用する生徒から聴き取りし、アプリに入力を行う。また、アプリは、日本事務器の「BOOKMARRY」を利用した。

3.3 収集期間

本実践は 2021 年度後期(10 月)から調査を開始した。(2023 年 6 月現在 調査継続中である。) 2021 年度前期から開始予定であったが、コロナウィルス感染拡大のため千葉市立小中学校でも遠隔授業が実施されていることもあり、対面授業が可能になった後期からの開始となった。

3.4 利用機器

千葉市立中央図書館、協力校には「返却アンケート」、「BOOKMARRY」がインストールされた iPad を配置した。

3.5 入力担当者

千葉市立中央図書館では児童サービス担当者が、協力校では図書館担当教員または図書館指導員が入力を担当した。

3.6 データ収集の対象図書

中央図書館では、教科学習に利用する団体貸出用の「貸出セット」を調査対象にした。利用者は返却時に「貸出セット」の各図書の評価と「返却アンケート」に回答し、中央図書館の担当者が入力する。

協力校では、教員が図書館指導員に依頼した授業で使うための図書資料を調査対象とし、図書館指導員が毎日入力する。小学校は 2 校兼務のため、1 週間に 1 度まとめて図書館指導員が入力する。

3.7 情報交換会

1 ヶ月に 1 度、第 4 木曜または金曜日の午後には本実践の協力者全員による TV 会議を実施し、1 ヶ月間の図書資料の利用や、授業内容からアンケートやアプリの入力方法などについて情報を共有している。

4. 研究成果

図書資料を使った授業が教室で実施される結果、授業は限られた図書資料を使って行われる傾向にあり、貸出資料の冊数についてアンケート結果では約半数の利用者が少なかったと回答しており、児童生徒が主体的に図書館の開架資料を十分に利用することができていない。学校図書館の開架図書資料をさらに有効に活用するために、図書資料についての情報共有と情報の更新を促進する必要があることがわかった。それにより、図書情報の量的問題と質的問題を巡って図書館側と学校現場との間に意識や認識の差があることも明確になった。

短期的にはアンケートやアプリによる評価の情報を共有することで、千葉市立中央図書館で

は教科の単元別セット資料の内容を見直し、協力校では各学年教科での資料提供依頼に対して資料の改善を測ることができた。

また、長期的には図書情報の量的問題と質的問題を巡って図書館側と学校現場との間に意識や認識の差がどのくらいあるか解明していくことが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 大平睦美
2. 発表標題 A Case Study on the faulty for teachers for subjecting in school library in Japan
3. 学会等名 International Association of School Librarianship Conference Proceedings (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大平睦美
2. 発表標題 アプリを使った図書館連携 千葉市での実践
3. 学会等名 日本図書館研究会図書館サービス研究グループ2022年2月研究例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大平睦美
2. 発表標題 On the Introduction of AI and Robots into the Operation of School Libraries
3. 学会等名 International Conference on Qualitative and Quantitative Methods in Libraries (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大平睦美
2. 発表標題 Pathways for School Library Education and Training in Japan
3. 学会等名 International Association of School Librarianship (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大平睦美
2. 発表標題 学校図書館における教科学習のための教員支援に関する研究
3. 学会等名 日本図書館研究会図書館サービス研究グループ2020年1月研究例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大串 夏身、大平 睦美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 176
3. 書名 学習指導と学校図書館	

〔産業財産権〕

〔その他〕

--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------